即興型英語ディベートのルール（North American Style短縮版）

1. 即興型英語ディベート（パーラメンタリーディベート）の概要

与えられた論題(motion)について、肯定側チーム(Government)と否定側チーム(Opposition)に分かれ、ジャッジを説得するゲーム。ジャッジの立場は「一般聴衆」である。試合を通してより説得力があった(matter, 議論の強さ、manner, 話し方が共に良かった)チームが勝ちとなる。

2. 準備時間

**基本的には１５分間もしくは２０分間だが、場合によって変えても良い。**

3. スピーカー

GovernmentはPrime Minister(PM), Member of the Government(MG)

OppositionはLeader of the Opposition(LO), Member of the Opposition(MO)がいる。

4. スピーチの順番・時間

PM → LO → MG → MO → LOR(Leader of the Opposition Reply) → PMR(Prime Minister Reply)

(４分) (４分) (４分) (４分) (３分) (３分)

最初の4つのスピーチをConstructive Speech, 最後の2つのスピーチをReply Speechと呼ぶ。Constructive Speechではどのような論点を出しても良いが、Reply Speechでは新しい論点を出すことはできない。また、HEnDA式のディベートとは異なり、各スピーチ間の準備時間は無い。

\*初心者で時間が余る場合は、3-3-3-3-2-2分で行っても良い。

\*大学ディベートではPMとPMR, LOとLORは同じスピーカーが行う（時間も7-7-7-7-4-4分と長い）ため、１チーム２名で試合をするが、**高校生の練習では１チーム３名で試合を行うことも多い。**（東海地区の講習会では基本的にこの形）

5. POI(Point of Information)

質問のこと。Constructive Speechの間、相手チームのスピーチ中(30秒～2分30秒)に、質問やコメントを15秒以内に発言することができる。これをPOI(Point of Information)と呼び、発言したい場合は“On the point.”などと声をかける。POIを受けるかどうかはスピーカーが決めることができ、受ける場合は“Yes, please.”受けない場合は“No, thank you.”などと答える。POIは立って行い、質問が終わった後はすぐに座る。

\*チームメイトへのPOIは不可。また、スピーカーではないチームメイトが相手のPOIに答えることも不可。

6. スピーカーの役割

 Gov Opp

論題の定義を行い、 肯定ポイント1に反論し、

LO

PM

肯定ポイント1を述べる。 否定ポイント1を述べる。

MG

LOR

PMR

否定ポイント1に反論し、 肯定ポイント1, 2に反論し、

MO

肯定ポイント1を補強かつ 否定ポイント1を補強かつ

肯定ポイント2を述べる。 否定ポイント2を述べる。

否定ポイント2に反論し、 否定側が勝っている理由を

肯定側が勝っている理由を まとめる。

まとめる。

7. 論題の定義とは

曖昧な論題の意味をはっきりとさせることを、「論題を定義する」という。たとえば、School uniform should be abolished. という論題では、「高校の制服を廃止する」のか、「小・中・高のすべてにおいて制服を廃止するのか」、「○○高校の制服を無くして私服登校とする」のか、など聞き手によって解釈が異なる可能性が高い。このため、議論の共通理解を得られるような定義をPrime Ministerがディベートの始めに行うことにより、GovernmentとOppositionの議論がかみ合うようにする。

\*あまりにも不公平な定義、おかしい定義は行わない。

8. ポイント(論点)の数

スピーチ時間を考慮し、各チームが出すポイントは2つとする。Constructive Speechを行う2名がポイントを1つずつ述べるようにすると、持ち時間の中で例を出しながら説明をすることができる。

\*以上6, 7, 8については、別紙「Speech Sheet」に沿ってスピーチを組み立てると身につけることができる。

＜参考資料＞

パーラメンタリーディベート練習帳(基本編)　中川智皓 著

文部科学省助成事業　高等学校における即興型英語ディベートプロジェクト　<http://englishdebate.org/>